

NIH短期留学報告

組織再建口腔外科大学院生 竹 内 涼 子

2017年6月～9月の約3か月間、アメリカ国立衛生研究所（NIH）に短期留学をさせていただきましたので報告いたします。今回の留学に際しまして、JASSO海外留学支援制度および新潟大学歯学部より奨学金の御支援をいただきました。

NIHはアメリカ合衆国メリーランド州ベセスダにあり、ワシントンDC中心部から地下鉄で20分の場所に位置しています。NIH敷地内には、20の研究所と7つのセンターがあり、世界中から研究者やスタッフが集まって働いています。私はその中の歯科頭蓋顔面研究所（NIDCR）に所属し、Molecular Biology Section/Laboratory of Cell and Development BiologyのYoshi Yamada 研究室でお世話になりました。Yoshi研究室には5名の研究者が在籍しており、一人一つ以上のプロジェクトを担当しています。私もその中のあるプロジェクトを担当させていただくことになりました。私はそれまで基礎研究の経験はなかったので、留学までの準備期間はプロジェクトに関わる論文や資料を読みながらとても恐れ多いような不安な気持ちで過ごしていたのを覚えています。

Yoshi研究室の持つ大きなテーマの一つに、歯の発生に関わる新規の遺伝子やそのメカニズムを解明することがあり、私はその中でもエナメル質形成についてエナメル芽細胞の発達を制御していると考えられるあるレセプターについて調べるプロジェクトに携わらせていただきました。ラボでの決まったスケジュールには、週に一度Yoshi先生とのディスカッションがあり、また二週に一度ラボ全体のセクションミーティングがあります。ここでは毎回一人ひとりがプレゼンテーションを行って、それぞれの研究の進捗状況を周知させお互いにアドバイスや意見などを言い合う場となり

ます。常に新しいデータが出せるよう、またいろいろな意見を出し合えるように発表を工夫するなど、日々の実験からプレゼンテーションの準備まで気を引き締めて過ごせる環境でした。

NIHに行って驚いたことの一つにNIH内のいたるところで講演会やセミナーが頻繁に開催されていることがあります。NIDCR内の講演会や他の研究室との合同セミナーなどの定期セミナーはもちろん、国内外のゲスト研究者による特別講演会も多くありました。私もできるだけ参加していましたが、私にとっては聞き慣れない内容が多いため、必死に聞き取って解釈した内容を一緒に聴講した先輩研究員に話したり後で分からなかったところをかみ砕いて説明してもらうことで理解するようにしていました。

私が滞在していた時期はちょうどアメリカの大学生たちが夏のインターン生として研究者や臨床医の経験をできる期間でもあったので、インターン生向けのセミナーにも便乗して参加していました。全米から厳しい審査を通過して集まった学生たちと一緒にグループワークやディスカッションを行うのは大変刺激的で毎回心地よい苦痛を感じていました。驚いたことに、アメリカはアジア系アメリカ人も少なくないため、見た目で私が外国人（日本人）という認識をされません。学生のような若い人たちはネイティブでない外国人に歩み寄って話すことに慣れておらず、会話は早口でスラングのような言い回しも混ざっているため、学生との会話が一番難しく感じました。

滞在期間中に、NIH内の若手研究者やインターン生向けの大規模なポスター発表のイベントがあり、私もポスターを作成し発表させていただきました。短い期間の中で力を注いで準備してきたつもりでしたが、当日他の人たちの発表を見てその

堂々とした態度やアピールの様子には大変圧倒されました。イベントは2日間に渡り、だんだんとその雰囲気鼓舞され、私も通りがかりの人たちに声をかけて自分から発表したり説明を聞いてもらえるようにアピールできるまでになりました。最初は自分の発表に不安があったり質問に怯える気持ちが強かったものの、話せば話すほど発表を聞いてもらえる嬉しさや楽しさを味わえ、充実感や達成感を強く感じることでできたイベントとなりました。

ここからはNIH以外の事を記したいと思います。滞在3か月間、住んでいたのはNIHのそばにあるシェアハウスでした。アメリカ人のオーナーさん、ドイツ人、イタリア人、フランス人が住んでおり、よくそれぞれの研究の話や他愛ない話をしたり、母国の料理を作り合うこともしばしばありました。シェアハウスといえど大変居心地がよく、またラボ以外でも英語を話せる恵まれた環境でした。ワシントンDCは政治の都市であり他業種の日本人も多いので異業種日本人会にも何度か参加させていただき、普段関わることのない方々とお話することができたことも大変貴重な機会でした。観光では、週末になるとニューヨークやボ

ルティモア、フィラデルフィアといった近隣の都市を巡りました。私は絵画が好きなので、ワシントンDCにあるスミソニアン美術館はもちろん、各都市の美術館巡りができたことは感激で、有名な絵画がいたるところで一気に眺められる空間は贅沢でした。体力的に一番辛かった思い出は、ラボの연구원たちと行ったポトマック川での川下りです。カヌー体験のつもりでワクワクしながら漕ぎ始めたものの、体験どころでは済まず目的地の岸まで下るのに7時間もかかりました。腕、肩、お尻の激痛に耐えながら7時間カヌーを漕ぎ続けたことは忘れられない思い出です。

この3か月を振り返ると、本当にあっという間で1日1日が惜しく感じるほど毎日が充実していました。楽しい思い出だけでなく、悔しい思いや苦しい思いを感じることも沢山ありましたが、すべて含めて出会った人たちや経験したことはかけがえのない財産になりました。滞在中に日記に書き留めてきた沢山の頂いた言葉の数々を思い起こして、これからの励みにしていきたいと思いません。最後に、今回の留学に関わってくださった皆様に改めまして感謝を申し上げます。ありがとうございました。



Summer Poster Dayにて



川下り前の笑顔。これから7時間もカヌーを漕ぐことになるとは、...